

舞鶴市市史編さん委員会現代部会（第3回） 議事要録

○日 時：令和7年11月20日（木）18時30分～20時

○場 所：Web会議

○出席者：上杉部会長、児玉委員、杉岡委員、黒沢委員、小山委員、山本委員
オブザーバー（熊本引揚港G委員、嵯峨根引揚記念館長）

○舞鶴市：生涯学習部文化振興課（横川課長、神村担当課長、田中係長、吉岡、廣瀬、石原）

《次第》

- 1 開会
- 2 部会委員等紹介
- 3 協議事項
 - (1)通史編「平成の舞鶴」の構成について
 - (2)執筆者等について
 - (3)その他
- 4 連絡事項
 - (1)今後の予定
 - (2)その他
- 5 閉会

《概要》

【協議事項】

(1)通史編「平成の舞鶴」の構成について

〔事務局より資料2・通史編「平成の舞鶴」構成案、資料3・綾部市史（続編）抜粋について説明〕

・今回の市史は、見開きで1つのテーマを取り上げて、上段を資料にして下段を文章にするという話が他の現代編以外のところで出ていたと思う。現代編ではこうしたテーマ別とするのか、綾部市史のような叙述式とするのか、確認しておきたい。

●事務局／資料編では、基本は原則見開き2ページで収めていくこととしている。「平成の舞鶴」は通史編であり、テーマによっては必ずしもそういう形でない方が読み手にとってわかりやすい場合があると思うが、テーマ別という形でまとめていくことになれば、やはり原則見開き2ページを基本に執筆していく方が書きやすいと思う。

・通史編についても、通すなら見開きベースの方がいいと思う。小山さんの京丹後市史が見開き構成であったと思うが、ご意見をいただきたい。

・京丹後市史は原則見開き2ページであったが、たまに4ページになったり、コラムを間に挟んでうまく収めたりというところもあった。綾部市史は従来の割と硬めの作りであり、今はデザインも綺麗なものがあるなど、いろいろと方法はあると思う。

・第1章の特出しと、第2章以下は少し違うと思う。第1章は例えば叙述的なもので、赤れんがや城門は2ページに収まらず、基本偶数ページで終るという形で、第2章以下は項レベルなどで、偶数ページ見開きで収めていくという形になると思う。市民にわかりやすいということが求められ、図版がたくさんあるなども含めて、見開きである程度ぱっとわかるというのは必要になってくる。また、資料2の章立て構成の考え方3つ目は、第2章以降の各章の冒頭にその分野の大きな流れを総括し記述するということで、例えば舞鶴市にとっての産業振興と都市間交流の流れを少し書いて、流れを出して見開きになっていくという、前回の私達の意見を踏まえて作成されたものとなっている。

・資料2の記述に関する特記、配慮事項のところで、当該分野の元気人という言葉がでてくる。元気人という言葉は使ったことがなく、舞鶴だけの言葉なのか、一般用語ではないよう

な気がする。どこが出典なのか。

●事務局／広報まいつづるで使われていたと記憶している。その分野で活躍されている人という意味であるが、特段のこだわりはない。

・舞鶴の皆様が読む前提なので、元気人という言葉も流通していてその方がよければ私はいいと思う。要は読み手が理解できるか気になった。

次に序章のところの平成の大合併、平成の大が抜けているが、ご承知の通り、舞鶴は平成の大合併をしなかったまちなので、ここは何を書くのか。合併しなかったことを書くのか。

●事務局／全国的に平成の合併が進んでいった中で、舞鶴がなぜ合併しなかったのかということについても触れておく必要があると思う。

・舞鶴が合併しなかった理由を記録に残すということは意義深いことだと思う。次に第3章の中等教育と高等教育の中身が少し気になった。中等教育は、小中一貫教育とか学校給食しか書いていないが、本来であれば高校が入る。市内には高校が3校あるが、高校のことは書かないのか。

●事務局／キーワードに入れていなかったが、高校の関係の記述は必要だと思う。

・ここは例示なので全部書く表ではないというのは承知しているが、大事な教育機関である。次に高等教育とあるが、この高等教育というのは基本的には大学短大高専を指し、舞鶴高専がこれに当てはまるが、ポリテクや専門学校のYMCAもある。高等教育等の等を入れて、大学と短大はないが高専や専門学校といった教育機関が豊かなまちということを書くべきだと思う。高等教育というタイトルはふさわしいか。

●事務局／ご指摘のとおり見直したい。

・そのキーワードに高等教育機関連携と書いてあるが、実際にはほとんど連携はないと思う。いろんな学校があるということがわかる記述の方がよい。次に第4章コミュニティのところ、地域コミュニティとしてまずでてくるのが自治会と自治会連合会だと思う。イベントももちろん大事だが、まずは自治会を書くべきだと思う。

●事務局／基本は自治会であり、地域コミュニティというくくりでは落とせないと改めて認識した。

・第6章に市民協働が出てくるが、平成となると指定管理者制度については触れないわけにいけないと思う。赤れんがパークや商工観光センターなど、民間と一緒にって公共施設を管理運営しており、市史としてしっかりと残す必要があると思う。市民協働の中に情報公開とかがあってもいいが、何かキーワードとタイトルが合っていない気がした。

●事務局／ご意見の通りの部分があると思う。指定管理はやはり平成の中では大きく、新たな制度でもあり外すわけにはいけないと思う。パブコメ、情報公開は直接市民行動ということではないが、それに繋がっていく大本にはなっていくので記載した。

・第6章に名誉市民・大使というのがある。また、付録にも功労者・名誉市民とあるが、どちらかに整理するか、もし書くのであればどういった意図で書き分けるという視点が要と思う。

●事務局／第6章の方は、コメント提供と書いているが、コメントをいただきこれを中心に載せる。付録の方は名前だけ載せるイメージである。

・第6章に持続可能なまちづくりとして市議会は載っているが、同時にその行政でみたときに、各市長の政策なども出てきてもいいと思う。市史編さん委員会でも市長に聞き取りをしてはという話も以前出ており、市長という項目があってもいいと思う。

・首長が変わると、施政が良くも悪くも大きく変わっていく。各市長が何かのときに発言した部分を記録していくことは、市史として必要と思う。それを評価していくのは書きにくいところがあるのかもしれない。

・市議会との関係になるのかもしれないが、所信表明演説などまちづくりの方向性についてどこかに示す必要があると思う。

・綾部市史には市長選挙と市議会選挙というのがあり、最低限残すべきエビデンスと思う。平成であれば多々見市政ぐらいまでの中でどのような特徴があったかというのはまた考えればいいと思う。

・確かに選挙や市長の所信表明演説など、記録としてこういう方向に市政を運営していたという流れは必要だと思う。しかし、市議会とも連動したり対決するなど、現在項目が市政と市議会が分かれているが、分けてしまうと逆に書きにくくなるので、検討が必要だと思う。

・まちづくりのビジョンがどうあったのか、どう変化してきたのか、市長と市議会との絡みの中で描けるとよい。

・キーワードのところは、各執筆される方がそれぞれアレンジしてもいいと思うが、逆にこれは落とさないでほしいもの、部会からのメッセージみたいになると思うので、先ほどの高校などのキーワードはもれなく入れていくべきだと思う。

・特出しのところに平和への願いを世界へ未来へというのがあって、第3章の文化スポーツの中に引き揚げという項目があるが、重複してるのか、描き分けられるのかご意見をいただきたい。

・重複しているところもあると思うが、大事なところなので書き分けられると思う。

・テーマ編もあり、これと記述が一部重複するのはいいと思うが、その辺も含めて第3章の項に引き揚げがあっても描き分けられるということでよい。

・分量的な問題もあり、テーマ編でかなり書き込むので、こちらはそこまでの記述は求められていないのでよいと思う。

・委員からあったように、テーマ編の方で書き込むので、こちらの通史編の方は概説的なところでいいと思う。より詳しく知りたい人はテーマ編を参照くださいということになると思う。

・引き揚げは、文化遺産という意味では無形文化遺産という分け方もでき、文化財ではなく文化遺産という枠組みもあり得ると思う。また、観光の日本遺産と、特出しの赤れんがを活かしたまちづくりでは、少し重複もあるというふうに思う。日本遺産は基本的に文化財ではないと思うが、文化庁の所管ではあるので文化遺産という枠組みとどう絡んでくるのか、観光がメインではあると思うが何を書くのか少し整理が必要と思う。

●事務局／特出しに赤れんがを活かしたまちづくりがあるが、第2章の観光の部分は通史編ということでもう少し具体的に書き込みが出てくると思うので、一部は重複するが特段問題ないを考える。また、文化遺産については、節項の整理の中でどういう括りにするのか検討する必要がある。

・国際交流について、引き揚げの関係では、ウズベキスタンやキルギスとの交流が盛んになってきていると思う。第3章のスポーツでオリンピックが入っているが、ウズベキスタンは元々オリンピックの関係もあり分けて記述されるのか。国際交流のところは、姉妹都市だけでなく、ウズベキスタンやキルギスとかキーワードとして入ってくると思う。コロナ後、海外との交流が拡大してきているのか確認したい。

●事務局／経済的な交流については、外国航路など港を活かして進んできており、また、キルギスやウズベキスタンなどは、人的交流などの取組みにより繋がりは増えてきていると感じている。

・特出しのところにも海を活かしたまちづくりで、対岸貿易もあり外国との関係が描かれると思うが、外国との繋がりというか国際交流的な部分も特色なので、まとめる形で強調できると面白いと思う。

・まちの特色の部分は特出しの部分にはもちろん出てくるが、第2章以下にも散りばめられることになる。この部会では、執筆者の皆が遠慮して書かなかったということがないようにしたい。第2章の国際交流は姉妹都市以外もあるので、キーワードを事務局の方で少し加えておいて、あとはキーワードをどう書いていくかということなので今後調整も必要と思う。

(2)執筆者等について(3)その他について

〔事務局より資料２・通史編「平成の舞鶴」構成案により、執筆者について説明〕

- ・事務局として執筆者の候補は、今のところ何%ぐらいか。
 - 事務局／執筆を受けてもらえるかは置いておいて、適任として名前が上がってきたのが半分強ぐらいという状況である。
- ・第2章以下各章の流れを書くところがあったが、これは部会員で分担した方がいいという気がする。各章の原稿を読んでまとめるところは、各先生方にできればお世話になりたいと思う。
- ・部会長のこの通史の流れみたいなものをどう作るかというところで、第1章の特出しのところに事務局としてのメッセージが出ていて感じており、流れが少し見えてきたと思う。執筆の方は、文化財のところは市の方もおられるので、私の出番はなしでも勝手に思っていたが、綾部市史では現在における伝説のあり方みたいなところが設けてあり、そうした部分ではお手伝いができると思う。執筆者については、事務局が地元の方に詳しいと思うので入れていってもらって、素案はなるべく早めにいただけると我々も動きやすい。
- ・特出しは、今、赤れんが、城門、平和、海となっているが、海から始まって平和に行くとか、順番を少し変えたほうがよいと思う。
- ・西と東のシンボリックなものが出ているが、加佐や大浦半島の方ではなくてよいのか少し気になる。
- ・やはり最初は海だと思う。それで平和、それから東西などの地域的なものだと思う。
- ・綾部の方であって、今回の章立てでないのが、目次でいうと地域情報化である。舞鶴ではFMまいづるができもう10年ぐらい経ち、そして舞鶴市民新聞が行政の情報を地域に伝える大切な役割を果たしてきた。執筆者のところで、報道OBとあったが、現職のローカルメディアの皆さんにもここは書いていただくことが必要だと思う。綾部市は市政の一部に入っており、市民協働のところでもいいかもしれない。
- ・確かに人々の交流に必要なツールとして、ローカルメディアの部分は大事なので、事務局の方で、特出しやコラムではなく、項でいいと思うので検討してほしい。
- ・舞鶴の戦没者追悼式に呼ばれて少し話すことになったが、今年戦後80年ということもあって、平成編ではあるが戦後どう追悼してきたのか。特に舞鶴は引き揚げが前面に出る傾向にあり、一方で戦争に関連した赤れんがが観光にという形になってきているが、ずっと追悼式をやっている。福祉の方だと思うが、項として事務局の方で検討いただきたい。
- ・もう1回確認しておくが、2章以下については、項レベルで見開きをベースにして、内容により偶数でいくと4ページになってくる。農林水産業が見開きで2ページとなると全然収まらないので、農林と水産で項を分けておくというのも手だと思う。基本項レベルで見開きを念頭において検討いただきたい。委員の先生方の意見を踏まえ、次回修正案をだしていきたい。
- 事務局／今回いただいた意見を踏まえ、整理をさせていただきたい。
- ・引き揚げのところは、1人で書くのかどうかは別にして、私がやらざるを得ないと思う。
- ・先程の部会長の追悼の話で思ったが、舞鶴市において平和教育はどのような内容なのか。中等教育などで何か書けることがあるのか。
- 事務局／引揚記念館もあり、学校教育の中で平和についての学びというのはある。先ほど部会長からの追悼とか遺族の関係について、第4章の福祉という話もあったが、黒沢先生に書いていただくこの平和への願いのところで、盛り込んでいくような形での整理はどうか。
- ・材料をいただければ、トータルに描くことができるのでその方がいいと思う。
- ・個別のことを書くのは大事だが、やはりトータルとして描くという視点は、可能な限り堅持したいと思う。特出しの平和への願いを世界へ未来への中に、追悼式を入れ込むのはいいと思う。

・まだ流動的なところもあるので、他の先生方も何らかはあたる可能性があるということ念頭に置いていただくことと、各章の冒頭に流れを総括し記述する部分は、部会員の仕事かと考えるので、少し専門分野が違うかもしれないが、執筆をお願いすることになると思うのでご了解いただきたい。

・市史はどちらかというと感情や解釈というよりも、事実を書いていくということだと思う。今AIがいろいろなものを書いており、最終的にAI任せは絶対無理だと思うが、各章の冒頭の流れの部分を、AIで挑戦的に取り組むことについて可能性はどうか。ニュース性はあると思うが、最近の事情や市史との相性、やらない方がいいのか倫理的な問題も含めて教えてほしい。

・編さん委員会の東委員長は、今歴史×AIを京都府立大学の歴史学科で推進しており、その一つの母体が舞鶴市史である。一方で市史は公的なものであるもので、AIを使うとなると少しハードルがあると思っており、まるまる舞鶴で検索していただくのみでいただけるが、事業として取組むとか、活用の方に生かすという点では、舞鶴市史は京都府の中では最も進んでいると思う。AIの活用については、各プロセスの段階では可能かと思う。

・現代史は現在の話なので少しぐらい遊びがあってもいいかなと思ってしまうが、もちろんセオリーがあると思うので、それを逸脱することは本望ではない。

・昨今生成AIの発展で、歴史叙述にもそういったものが応用できるかという議論はもちろんあってしかるべきだと思うが、一方でやはりその歴史学と生成AIは共存すべきでないというか、できないという論考もある。要はその歴史資料が紙媒体であるとか、古文書であれば、さすがにAIは手をつけられないが、ネット空間であれば、歴史資料として本来過去にないものができ始めてきたときに、それをプロの我々も真贋がもうわからなくなってくる可能性も十分ある。判定できなくなる可能性があるものと共存できるわけがないというまっとうな議論もある。文明動態学という雑誌に掲載された、名城大学理工学部の大知聖子先生が書かれた論文を、今後の編さん活動にも使っていただけたらと思うので、共有しておきたいと思う。

・東先生がやっているのは、生成というよりもデータベースを瞬時に組み合わせて提示していくようなもので、生成の方まではまだ行けていない。もう既に偽文書というようなものは出てきており、私の分野では、偽物の地図というか空間情報がどんどん出てきている中で、どう市史を描いていくか大きな課題だと思う。

・6月の市史編さん委員会場で、関係しそうな話が出たので情報共有をさせていただきたい。今回の新修舞鶴市史の編さんでは、近代編までは近年明らかになった資料を中心に資料編として紹介をしていくが、「現代」は引揚港編と平成の舞鶴で、戦後の資料編がないという趣旨の意見があった。委員会の中では、今回ではないにしても、平成編は見開きである程度資料が載せられるのかもしれないが、戦後から昭和末期である既刊市史の部分の資料を、何らかの形で残したり公開したりする必要があるという話が出ていた。

・「現代」の資料編が、前回の市史と今回の新修市史のところで抜け落ちているという意見が、編さん委員会で寄せられた。昭和の30年40年ぐらいの戦後激動の舞鶴のところが資料編として刊行される予定がないという。やや大きな問題ではないかと私も思う。

●事務局／例えば人口減少の問題など議論がでていたと思うが、平成の人口減少を出すのであれば、昭和について何か触れておく必要があるのではとか、国際交流などでは姉妹都市は、昭和はどうだったのか、先に港湾関係の資料をダンボール箱で20箱程度もらってきたが、当時は大連やウラジオストックと活発な交流が行われており、昭和からの流れを抜きにはできない。そうしたことをふまえ何らかの形でそこは考えていくべきではないかと思う。

・先日、両丹文化財保護連絡協議会という文化財保護審議会の集まりの中で講演させていただいた。戦後の行政文書の扱いが非常に悪く、福知山はごくごく一部しか残っていない。戦後の舞鶴の行政文書が残っているのか、また、学校の統廃合が今進んでおり、学校資料が閉校の時に処分されたり、学校日誌など最後の日誌を書いておしまいみたいな感じのところか

実際にあったので気になる。こういう機会でない大きな調査はしづらいと思うので、調査いただくよう要望したい。

●事務局／委員の発言にあった調査に加えて、聞き取り調査も含めて、今しておく部分がたくさんあると思う。

・戦後の資料編について発刊予定はないが、この資料編をもう1冊増やすというのは編さん委員会として大きなことではあると思う。また、この時代の資料が散逸しないように調査をして適切に保存するという方針が委員会としてはっきりと打ち出せていないし、次回編さんする時に資料がないということがないよう資料を残せる体制というのは必要と思う。現代部会としてこれらが必要であるという認識を共有して、今回の編さん事業で漏れがないように編さん委員会の方に提言したい。

4 連絡事項

●事務局／本日の会議の議事録をまとめるので、内容を確認いただきたい。並行して本日の皆さんの意見を踏まえ章立て構成を再整理し、また、事務局で執筆候補者に執筆依頼をお願いしに回りたい。次回第4回目の現代部会を3月ぐらいに開催して、平成編の構成の確定と執筆者について固めていきたいと考えている。その間必要に応じてメールでのやり取りで情報共有、調整をさせていただきたいのでよろしくお願いいたします。市史編さんに係る資料のデータベース化については、来年1月に電子化できた資料を共有ドライブに保存して、各委員さんがアクセスできるように準備を進めている。今後具体的な手順等をまとめてお知らせしたい。

・次回にある程度目次を確定させたいということなので、案の段階でよいので早めの資料提供と、関係する先生方へ適宜ご相談をいただきたいと思う。平成編については、令和10年度刊行なので、今後具体的な部分に入っていくが、皆さんもぜひご協力をよろしくお願いいたします。